

<目次>

●横浜市、中学3年まで医療費完全無償化へ(23年度内から)

■8月2日 診察室でのできごと

▲ お知らせコーナー

☆8/21迄、川崎市平和館原爆展「長崎の原爆」

☆8/20西加瀬・巨大物流センター建設予定地の調査ウオーク

☆8/27ゆめシネマ「スズさん」戦中戦後を生きた大田区の主婦のくらし

☆9/4西加瀬プロジェクトを考える会

★ 編集後記

●横浜市、中学3年まで医療費完全無償化へ(23年度内から)

(神奈川新聞2022年8月11日)

横浜市は小児医療費助成の所得制限を撤廃し、自己負担分を全額助成する方針を固めた。現行制度は年齢によって所得制限や窓口での一部負担金が設けられているが、市議会との協議がまとまれば2023年度内から、中学3年までの「通院」「入院」にかかる医療費が無償化される見通し。10日、複数の関係者への取材で分かった。

中学3年までの小児医療費無償化は、山中竹春市長が昨夏の市長選で公約に掲げた出産費用無償化と75歳以上の敬老パス無料化を含む「三つのゼロ」の一つ。

市民からの要望が強いとして、就任後初めて策定する22年度から4年間で市政が重点的に取り組む「中期4カ年計画」の素案に盛り込むことを決めた。

関係者によると、助成対象は現行制度と変わらないが、所得制限や通院1回につき上限500円の一部負担金を廃止する。市の試算では新たに約39億円の財源が必要になるという。

<大山県議のコメント>

これは、山中市長の公約の一つでもあります。

ぜひ実現するためには議会に邪魔させてはいけません。

市民の皆さんには、これまで医療費助成の拡充にブレーキをかけてきた自民党公明党議員にぜひ働きかけていただきたいと思います。

「市民の願いに応えるべき」と。

群馬県では、県が中学3年生までを助成するので市町村は上乗せすれば対象年齢をさらに引き上げられます。

群馬県内35自治体のうち17自治体で入院が18歳年度末まで、9自治体が入院通院ともに18歳年度末まで！

県政大事ですよ。県が対象を引き上げれば県内全体の医療費の水準が引きあがります。
進んだ自治体のHP っってかっこいいんですよ。↓↓

<https://www.pref.gunma.jp/02/d5610008.html>

「入院・通院ともに中学校卒業までを対象とする本県の制度は、所得制限や、受診時の自己負担がなく、利用しやすい制度となっています。」こんなこと早く神奈川県も書いてみてほしい。

神奈川県の助成は未就学児のみ。残念です。

■8月2日 診察室でのできごと —Dr.Kのつぶやき—

昨日こんな事がありました。

私の予約外来の70歳代の女性。耳が遠いが明るくてよく喋るかた。

但し話はいつも一方的で当方の説明が入りにくい。

診察室に入るや、「ウチの体温計壊れているのかなあ。

ウチでは37℃を超えていたのに、ここに来たらそんなにないので大丈夫と言われた」と言う。

いつものようにパルスオキシメーターを使い、血圧を測っていると、急に咳をし出した。マスクはちゃんとかけている。

「どうしたの？」と尋ねると「私3日ほど前から風邪ひいてこのクスリ飲んでいるの」と市販薬を取り出した。

「あ、トリアージ破りだ！」すぐに診察を中止し、一旦帰宅するよう説得し診察を終わった。(風邪薬は熱を下げることもあるので、診断を狂わせます！)

胸の聴診はしなくて良いのかと不満を言いながら診察室を出て、院外の検査場でPCRを受け自転車で帰宅した。

私は手洗いをして、しばらく診察室を換気してから次の患者さんを呼び込んだ。案の定、先ほどの患者さんの結果は陽性であった。

だが、話はこれで終わらない！コロナ陽性の結果の報告の電話をかけたらご主人が出た。「妻は耳が遠いので電話は私が出ている。何の電話ですか？」と言うので、実は奥さんはコロナにかかっていると説明すると、夫は「やっぱり」と言う。

何故そう思うのかと聞くと、「私もコロナにかかっているから」と衝撃の告白。

(家族に陽性者が居たら電話で医師の判断を仰ぎます。病院に行ってはいけません)

「これで家族全員がコロナになった」と。もう1人の同居人の姪御さんも2日前からコロナになっているらしい……。

保健所業務が逼迫し、対応が遅れたり、説明が不十分になっていることが原因と思われる。

問題は、今日の患者さんが自分が濃厚接触者だとは全く考えていないこと。

今後、2類相当から5類となればこんなケースが当たり前になるかもしれません。

そうなる前に、まずは抑制されてきた社会保障施策を充実させ、市民に身近な保健所機能を充実させることが先決です。

Dr.K

☆川崎市平和館原爆展「長崎の原爆」

7/23 ～ 8/21 9時～17時

会場：川崎市平和館

入場無料

☆西加瀬・巨大物流センター建設予定地の調査ウオーク

8月20日（土）9時集合10時半まで

集合場所 川崎市平和公園、綱島街道口

雨天順延 8月21日（日）9時

連絡先 田鎖英男 090-3514-8397

☆ゆめシネマ「スズさん」戦中戦後を生きた大田区の主婦のくらし

8/27 ①9時 ②11時 ③13時 ④17時 ⑤19時

③の後、監督によるアフタートークあり。

一般：1,000円 障がい者：500円 学生以下：200円

044-433-3003

yy.nannbusen@gmail.com

☆仮称「西加瀬プロジェクト」を考える会

9/4 13時半より

会場：川崎市平和館屋内広場

★ 編集後記

横浜市政についての泉房穂 明石市長の反応が興味深い。

横浜市の山中竹春市長が、2021年8月の市長選で公約に掲げたのが「出産費用ゼロ」「子どもの医療費ゼロ」「敬老パス自己負担ゼロ」の“3つのゼロ”に加え、「中学校の全員給食」でした。ところが、「2022年度の予算案には、いずれも盛り込まれないことになった。」と1月15日に報道されました。

それについて、1月22日、泉房穂氏は「『公約』は選挙で主張した市民との約束であり、政治家にとってもっとも大事な約束。それを守れないなら即刻やめるべきです。」と一喝。そして、『自民党・無所属の会』との対立があったとの言い訳に対し、「首長と議会の意見が異なることは当然あるんです。・・・山中市長は反対派に配慮して予算化しなかった。これは言語道断で首長に値しない。」「公約がある以上、最低でも予算案は作って提出しなければならない。もちろん、可決されるかどうかは別の話です。」

さらに、報道姿勢に、ひとこと。

「膨大な財源を要するので仕方がない」かのような報道は間違っている。膨大でもなければ、仕方なくもない。一般会計2兆円の横浜市なら、公約実現の予算は、2%程度。やる気になれば、できることだ。

そして、今般、横浜市が計画に盛り込んだ報道に触れ、
「英断だ。市長選の公約のひとつでもあり、是非とも実現していただきたい。
全国どこでも、やる気にさえなれば、本当はできることだ。」とエールを贈りました。
説得力あり、胸のすく明石市長の一喝、そして市民の粘り強い運動が、及び腰の山中市長に決断させた。
さあ、次はかわさきでも！！（Y）